

4月麻績村教育委員会定例会議 会議録

令和5年4月10日(月)

午前9時30分～

地域交流センター第3・4研修室

出席委員 職務代理 小山正文 委員 高野羊子
委員 宮下温子 委員 小松小百合

出席職員 麻績保育園長 塚原京子 麻績小学校長 伊藤尊夫
筑北中学校長 臼井伸明 教育長 加瀬浩明
次長 臼井太津男 主任 高野智弘

一 開会(臼井教育次長)

令和5年4月の麻績村教育委員会定例会を始めます。よろしくお願ひいたします。

二 教育長挨拶(加瀬教育長)

教育長: 令和5年度がスタートしました。保育園、学校ともに入園式、入学式を無事に済ませ順調にスタートしたことを確認しました。教育委員会も新たな年度を迎え、皆さんと協力しながら進んでいきたいと思ひます。教育委員会自体は応援団という気持ちで進んでいきたいと考えています。様々取りくまなければならぬことはあります。まずは、麻績小学校に4月1日より伊藤尊夫校長先生をお招きすることができました。伊藤先生ぜひよろしくお願ひします。校長先生からご挨拶をお願ひします。

伊藤校長: この4月に麻績小学校の校長として着任しました伊藤尊夫と申します。前任は片岡小学校で教頭をしておりました。初めての校長職となりますのでドキドキしながら一日一日を過ごしています。子供たちは何処でも同じで、とてもかわいい子供たちに出会うことが出来ました。入学式の日「是非みんなと話したい」「声をかけてね」と言ったら、式の後何人か私の所へ来て話しかけてくれた子もいました。これから一人一人の名前と顔を覚え、子どもと距離の近い校長になれたらと思ひて頑張っていますのでよろしくお願ひします。麻績村での勤務も初めてとなりますので、麻績のことを教えていただきながら早くこの地にも慣れていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

教育長: ありがとうございます。それぞれ自己紹介をお願ひします。

・自己紹介

三 報告

1) 公民館長任命報告

白井次長: 報告事項に移ります。公民館長の任命報告をお願いします。

教育長: 麻績村公民館長を内山修治館長にお務めいただいておりますが、3月31日で任期が終了いたします。この2年間はコロナの影響で様々な公民館行事がほとんど出来ていない状況が続いておりました。村長と私で相談し、内山館長に「もう2年間延長してお願いしたい」と申し出たところ、快く引き受けしていただきましたので御委嘱いたしました。事後報告となって大変申し訳ありませんが、内山館長再任と言うことで令和5年の4月1日から令和7年3月31日までとなります。皆様のご同意をいただければと思います。

白井次長: 只今の公民館長任命報告についてご意見等ございましたらお願いします。続いて教育長報告に移ります。

2) 教育長報告

教育長: (以下、資料に沿って説明)。

白井次長: 続いて子育て支援コーディネーター報告に移ります。

3) 子育て支援コーディネーター・保育園長・学校長報告

高野CO: (以下、資料に沿って説明)。

白井次長: 只今の子育て支援コーディネーター報告についてご意見等ございましたらお願いします。

小松委員: 子どもの居場所づくりと言うことで4日間実施していますが、具体的にどのような活動をしたのかをお願いします。

高野CO: 3月20日は麦ふみの活動を行いました。麦畑までは車で移動しました。作業自体は30分もやらないので、その後は小学校の校庭で学生と身体を動かしたり、運動したり、遊具で遊んだりしました。それからほかの日には段ボール工作や紙粘土工作を行いました。

小山職務代理: おみっこの活動と似たようなところですか。

高野CO: 学生が企画提案し、事務局と一緒に行いました。

白井次長: 制限があって学生も思ったような活動ができなかったことに対して、春

休み期間中に何かできないかと提案があり始まりました。それでは続いて
保育園長報告に移ります。

塚原園長: (以下、資料に沿って説明)。

白井次長: それでは続いて小学校長報告に移ります。

伊藤校長: (以下、資料に沿って説明)。

白井次長: それでは続いて中学校長報告に移ります。

白井校長: (以下、資料に沿って説明)。

白井次長: 保育園長、小学校長、中学校長それぞれからご報告いただきましたが委員の皆様からご質問等ありますか。

教育長: 私からまとめてお願いします。まず1点目は、「施設を長寿命化すること」を村長からはっきりと言われております。長寿命化に向けて計画的に修繕していかなければならない部分があるかと思えます。昨年は「ここ壊れた」「あそこが壊れた」という所に慌てて対応する状況がありました。今年も緊急性があれば対応しなければなりません。計画的な修繕を進めるためにも修繕個所を洗い出していかなければなりません。さらに、長寿命化だけでは対応できない場合、その先をどうしていくか、教育委員会として考えをもっていなければなりません。2点目は「個別最適な学び」一人ひとりに合わせた学びに転換していかなければなりません。一人ひとりの理解度に合わせて支援をしていかなければならないと思えます。ICTの活用が急速に進んでいるので対応していく必要があります。村としてICT活用の職員研修をしていかなければならないと考えています。本年度村ではデジタル推進員を1名配置しました。学校現場で活用して良い職員なので、担当の先生やお困りの先生への支援ができればと思います。今後は計画的に職員研修を深めていきたいと考えています。

白井次長: それでは次に移ります。

4) 教育委員会関係職員及び非常勤特別職 委員について

白井次長: 私から説明します (以下、資料に沿って説明)。
ご意見等ございましたらお願いします。

小山職務代理: デジタル推進員についてももう少し詳しくお聞かせください。

白井次長: デジタル推進員として情報管理に携わってもらいます。役場全体の DX 推進が一番大きな業務になります。学校・保育園の ICT 環境の整備にかかわってもらうようになります。

5) 今年度の教育環境施設整備予定について

白井次長: 施設の長寿命化をはかるためにも施設修繕が必要になってきます。それに伴って突発的な修繕も予想されます。できるだけ計画的に修繕を進めていきます。本年度は保小中の給食設備の整備を計画しています。

6) 麻績村・筑北村両村教育委員会に提出された意見書について

白井次長: 筑北村との打ち合わせの日程について投げかけているところです。现阶段では具体的な日程については連絡が来ていません。今後、筑北村と協議していく予定になっています。

教育長: 今回の 48 名の署名がつけてありました。この意見書が両村に出されたので、それぞれの教育委員会で打ち合わせをしながら、各施設の見学や懇談など一步進めていきたいと思えます。学校規模から申しますと、両村が一緒になっても学級が二つできるわけではなく、一学級の人数が増えるのみになります。35 人が上限で、そこに 1 人 2 人増えた状況で二学級になるのを不安定学級と言います。転出入があった場合に、また一学級に戻ってしまう可能性があるのです。このような場合、県の教育委員会から、正規の教員の配当がありません。基本的な条件を確認させていただいて、意思統一を図っていききたいと思えます。

一人一台ずつタブレットがあって、学習の方法がこの一年全く変わってきています。このような状況を踏まえると、新たな形で交流をすることが可能となります。今後両村の村長同士で「一緒にやろうよ」ということになれば、尊重してやらなければならないと思えます。そうなった場合に備えて教育委員会では、シミュレーションはしていいきます。

小山職務代理: 麻績小学校の規模だと全先生が、全児童を知っているので、しっかりとした指導ができていっているように感じています。

教育長: 地区懇談会の時に、資料を作っていて説明し、発信するようにします。

四 協議事項

1) 教育大綱 基本方針の各項目の評価結果について

教育長: 教育大綱につきましてお願いしたいと思います。事前に教育委員の皆様
に、評価をお願いしています。委員の皆様、園長先生や校長先生にも、意
見を出していただいで、方向性が見えてくればよいかと思ひます。

小松委員: コロナ禍で出来ていなかったことがあったかと思ひます。子育てに關し
ては、一人ひとりの子どもが、幸せでいられるように支援・見守りができ
るようにと思ひています。

塚原園長: 子育てに關する不安や悩みについて昨年度はペアトレを実施して、その
効果が見えてきました。「やって良かった」との感想もいただきました。今
年度もペアトレ実施の案内を出したところ、以前の参加者からの感想を受
けて、また違つた保護者から参加申込を頂戴しました。ペアトレの良さは、
同じ悩みを持つ保護者が、グループになって話ができることや、専門の先
生に相談することができることです。相談しにくい内容の対応については
工夫が必要かと思ひます。

コロナ禍で休まなければならない環境になつたと感じます。麻績村では
病児保育の整備も進められてきていますが、住民課と連携しながら進めら
れるとよいと思ひます。

白井校長: 子育て支援の部分で、年齢によって関係部署が変わる考え方は変えてい
く必要があるように感じます。0～18歳の考え方は、大事にしていて
ほしいと思ひます。発達障害などの個別の支援については、早期発見で変
わってくることは多いと思われまふ。保護者の方には、特別支援の見方や
考え方をご理解いただきながら、その子にとっての個別最適な学校生活が
送れるための体制整備ができてくると、さらに良いと思ひます。

生涯スポーツについては、松本大学と連携していきたくと思ひます。子
供たちに万歩計など渡して、見える化できれば生涯スポーツにつながって
いくかなと考へています。

宮下委員: 一番感じるのは、保小中一貫教育という所で始まつたことが根付いてき
て、子供たちも違和感なくいろいろな活動ができていることを感じます。
自分の周りにいる友達を見つめなおしたり、自分を見つめなおしたりする
部分につながり、その結果として逞しい子供になつていくのかなと私は見
ています。

高野委員: 0～18歳までを統括して見られる村の仕組みが欲しいと思ひます。そ
こを見られるコーディネーターを専属で配置してほしいです。保護者は、
そういったサービスを利用するのを恥ずかしいと思ひている方が多いです。
「相談してください」と言つてもなかなか相談に来ないのが現実です。自
分でもう少し動けたらと考へています。

小山職務代理: 麻績村としては、0～18歳の部分について手を尽くしているかなと思ひ
ます。気軽に相談できる受け皿の整備体制が望まれます。

教育長: 根本的な問題は、そこにかかわる村の部門が分かれていることです。システム自体はすぐには変えられないですが、連携については、もう少しやらなければならないと思います。保育園とひだまり広場に関しても、連携をさらに進めていくと良いと感じます。最初の部分と、中学を卒業した後の部分に手が回らない状況にあり、村としては、手を入れていかなければならないところです。

この評価に関しては、公表しなければならない決まりがあります。このままでいくのか、文章化するのか検討させていただき、特に評価の低い部分については、課題として捉えて公表していきたいと思います。総合教育会議を5月に予定したいと思います。そこで教育大綱の策定ができればと考えています。ご意見等ございましたらお願いします。

高野委員: 現在 PTA を保小中単独で運営しているので、何とかした方が良くと思います。合同にするとか解散にするとか。あるいは保護者会の自主的な活動に移行するとか。現行のままでいくと摩擦がものすごく感じられます。

白井校長: コミュニティースクールの中に子育て部会があるので、小中一貫で保護者の方が一緒に学校について協議し、協力できる場づくりができるとうまいと思います。

伊藤校長: 私が大事にしたいと思ったことは、少人数規模のメリットを最大限に生かすことだと思っています。そんな中で保小中の一貫を進め、ICT 推進をはかり、学校間や学年間の交流また、個別に支援が必要な人たちにしっかりと手を入れていくことなどメリットを最大限に生かして取り組んでいきたいと思っています。

五 その他

1) 各委員から

教育長: 各委員さんからございますか。よろしいですか。

2) 事務局から

教育長: 事務局より連絡事項をお願いします。

白井次長: 令和5年度関東甲信越市町村教育委員会連合会総会及び研修会の開催についての連絡です。(以下、資料に沿って説明)。

3) 次回予定

次回の定例教育委員会の日程 5月2日(火) 午前9:30～

六 閉会

教 育 長: 以上をもちまして4月の定例教育委員会を閉じます。